

第八類

本邦諸雜誌ニ現レタル人口ニ關係アル
論說及ヒ記事

(Principal Articles on Population published
in Japanese Journals)

法學士 本庄榮治郎
法學士 大山 壽 共編

備考、一、茲ニ收ムル所ノモノハ左ノ二十二種ノ雜誌ニツキ(イ)
まるさすニ關スル論說及ヒ記事(ロ)人口論、人口ノ増減、出生、
死亡、制限、人口ト食物トノ關係、人口ノ都市集中等、關スル論
說及ヒ記事(ハ)人口ノ密度、人口ノ壽命、公生私生男女ノ數的關
係、結婚、離婚、移種民、人口統計學、國勢調査及ヒ單純ナル統計
表ノ類ヲ含マス。(ニ)主トシテ我國繼新以前及ヒ支那朝鮮ノ人
口ニ關スル論說及ヒ記事(ヘ)人口調査、人口ノ移動、統計表、類
ヲモ包含ス。(ホ)主要ナルモノヲ蒐集セルモノニシテ、便宜ノ爲
メ次ノ略稱ニヨリテ誌名ヲアラハスモノトス。

(丙外) 丙外論叢、自第一卷一號(明治三十五年二月)至第五
卷六號(二十九年十二月)

(京法) 京都法學會雜誌、自第一卷一號(明治三十九年一月)
至第十一卷三號(大正五年三月)

まるさす及ヒ人口論關係書目 二九

(論叢) 經濟論叢、自第一卷一號(大正四年七月)至第二卷三
號(五年三月)

(法協) 法學協會雜誌、自第一卷一號(明治十七年三月)至第
三十四卷三號(大正五年三月)

(國家) 國家學會雜誌、自第一卷一號(明治二十年三月)至第
三十卷三號(大正五年三月)

(國民) 國民經濟雜誌、自第一卷一號(明治三十九年六月)至
第二十卷三號(大正五年三月)

(三田) 三田學會雜誌、自第一卷一號(明治四十二年二月)至
第十卷三號(大正五年三月)

(スタ) スタヂスチツク雜誌、自第一號(明治十九年五月)至
第六十八號(明治二十四年十二月)

(統集) 統計學雜誌、自第六十九號(明治二十五年一月)至第
三百五十九號(大正五年三月)

(統集) 統計叢誌、自第一號(明治十三年十一月)至第四百二
十一號(大正五年三月)

(東京) 東京經濟雜誌、自第一號(明治十二年一月)至一千八
百四十四號(大正五年三月)

(東洋) 東洋經濟叢報、自第一號(明治二十八年十一月)至第
七百三十七號(大正五年三月)

(日社) 日本社會學院年報、自第一年一、二合冊(大正二年十
二月)至第三年一、二合冊(五年一月)

(社評) 社會、自第一卷一號(明治三十二年一月)至第三卷一
號(三十四年一月)

(洋々) 洋々社談、自第一號(明治八年四月?)至第四十號
(十一年三月)

(學藝) 學藝志林、自第一卷第一冊(明治十年八月)至第十七
卷九十九冊(十八年十月)

(如蘭) 如蘭社話、自卷一(明治二十一年五月)至卷五十一(大

第二卷 第五號

正元年九月)同後篇自卷一(大正二年六月)至卷十四(四年七月)
(皇典) 皇典研究所講演、自第一號(明治二十二年二月)至第
百八十號(二十九年八月)

(江雜) 江戸會雜誌、自第一號(明治二十二年六月)至第二號
(同七月)

(江會) 江戸會誌、自第一冊一號(明治二十二年八月)至第二
冊十二號(二十三年十一月)

(史學) 史學雜誌、自第一編一號(明治二十二年十二月)至第
二十七編三號(大正五年三月)

(歷史) 歷史地理、自第一卷一號(明治三十二年十月)至第二
十七卷三號(大正五年三月)

二、以上諸雜誌ノ外、尙編者ノ心付キタルモノニツイテハ之ヲ
備考トシテ各項ノ終リニ附記スルコトトセリ。

三、雜書畧稱ノ下ニ記セル數字ハ卷號ト發行年月トヲ示ス。例
ハ五ノ二(三〇ノ二)トアルハ五卷二號、明治三十年二月刊
行ノ畧稱ナリ、而シテ吾人ノ閱覽シタル雜誌ニシテ明治五年
以前ノ出版ニカカルモノナキヲ以テ、明治大正ノ兩年號ヲ附
記スルノ必要ナシメス、故ニ一ノ二(四ノ八)トアルハ一巻二
號、大正四年八月刊行ナリト知ルヘシ。

四、以下収録セル處ノ論文記事中ニハ創作ノ外翻譯、抄譯ニカ
カルモノ多シ。然レトモ印刷ノ都合上、ソノ原稿者ノ原題目
等ハスヘテ之ヲ畧畧ニ附セリ。

五、本書目ノ構成ハ頗ル短時日ノ間ニ之ヲ遂行シ、且雜誌ノ蒐
集ニ比較的多クノ時日ヲ費シ、内容ノ閱讀之レガ取捨選擇
ニ對シ多クノ時間ヲ充ツルコトヲ得サリシタメ遺漏其他ノ缺
點少カラサル可シ。讀者ノ諒察ヲ乞フ所也。

第一 まろさすニ關スル論說及ヒ記事ノ主要ナルモノ

* * * * *
東京 九九(一五ノ二)

第二卷 第五號

鶴城 居士 さーますろばーと、まろさす氏 東京 四七五、四七七(二一ノ六、七)

* * * * * 經濟學ノ歴史 東京 四二、四七(一三ノ一〇、一一)

伴 癡齋 十八世紀後半世諸家ノ經濟論 東京 二七〇(一八ノ六)

* * * * * 第二學派まろさす氏ノ論 東京 二九三(一八ノ一一)

河上 彥 津村博士ノ國民經濟學原論ニ就テ 論叢 一ノ一(四ノ七)

同 まろさす人口論初版以下各版ノ差異 論叢 一ノ二(四ノ八)

松崎 謙 ぶれんたの教授ノまろさす觀 國民 九ノ六(四三ノ一二)

高野岩三郎 まろさすト人口統計學 東京 一八四三(五ノ三)

神戸 正雄 歐羅巴ニ於ケル新まろさす主義 内外 二ノ四(三六ノ八)

同 重ネテ新まろさす主義ニ就テ 内外 三ノ一(三七ノ二)

岩井 龍海 新まろさす主義ノ辯解 日社 二ノ一、二(三ノ一二)

布川 靜淵 まろさす誕生百五十年記念 東京 一八三八、一八三九、一八四一(五ノ二、三)

本庄榮治郎 まろさす誕生百五十年記念記事 論叢 二ノ三、國家三〇ノ三(五ノ三)

* * * * * まろさす記念講演會及ヒ圖書展覽會 京法 一ノ一、三(五ノ三)

* * * * * まろさす記念祭 純維 三五八(五ノ二)

* * * * * まろさす誕生百五十年記念會 統集 四二〇(五ノ二)

* * * * * まろさす記念會ニ於ケル統計局ノ圖書出陳 統集 四二〇(五ノ二)

* * * * * まろさす誕生百五十年 東洋 七三三(五ノ二)

備考 經濟論叢二ノ四、國家學會雜誌三〇ノ四ニハまるさす
 誕生百五十年記念會記事ノ正誤ヲ載ス。尙雜誌「經濟叢書」中
 ニ掲載セラレタル内田鎮藏氏ノ「經濟史ノ研究ニ就キテ」ナ
 ル論說中ニハまるさすノ研究ノ態度ヲ論シタル條アリ。

第二 人口論、人口ノ増減、出生、死亡、制限、人口

ト食物トノ關係及ヒ人口ノ都市集中等ニ關スル
 論說及記事ノ主要ナルモノ(但、人口ノ密度、人
 ノ壽命、公生、私生、男女ノ數ノ關係、結婚、離
 婚、移殖民、人口統計學、國勢調査及ヒ單純ナ
 ル統計表ノ類ヲ含マス)

岩井德次郎 我國人員増殖ノ歩合及其二倍期
 スタ、二八二(二一ノ八)

岩村 茂 日本人口論 國家 六ノ七六(二六ノ六)

伊藤 長夫 人口増殖ヲ論シテ族制ノ改良ニ及ブ 東京 三八八(二〇ノ一〇)

伊藤 義見 野蠻ト開化トニヨリ人口ニ多少アルヲ論ス 統集 一三五(二五ノ一一)

稻田周之助 舊人口問題及新人口問題 國民 一〇ノ四(四四ノ四)

井上庚二郎 自殺ニ關スル研究 統集 四一八(四一ノ二五ノ一)

今井 武夫 變死 斯塔、一九二〇(一〇ノ一〇)

同 東京ノ人口ニ就テ 斯塔、四七、六〇(二三ノ三、二四ノ四)

池田 近勇 西歐羅巴ニ於ケル最近人口ノ成長 統集 二九四(二九五、二九七、二九八)

同 統集、三五六、三五七、三六〇(一三六、一四三、一四四、一四四)

石原 修 紡績女工ノ恐ルヘキ結婚死亡 東洋 七〇六、七〇七(四ノ五)

まるさす及ビ人口論關係書目 三一

石橋 五郎 人口集中ニ關スル新定書 國民、一五ノ三(二ノ九)

石川 惟安 東京市ノ各種死亡者ニ就テ 統集 二〇〇(二〇、二一、二二、二三、二四、二五)

同 東京府下ノ人口ニ就テ 統集 二七〇(三六ノ九)

同 伊豆七島ノ人口ニ就テ 統集三〇一(三〇二、三〇三、三〇四、三〇五)

同 都市人口ノ増加ニ就テ 統集 三七八(一ノ八)

同 東京市ノ人口ニ就テ 統集 三八〇(一ノ一〇)

同 大正二年ニ於ケル東京府下ノ死亡 統集 四二二(四ノ六、七)

同 東京府管内市郡間最近十七年間ノ戶口増減 統集 四一九(四二〇、五ノ一一)

色 部 貢 北米近時ノ人口増加ト其占居狀態 國家 三〇ノ二(四ノ二)

服 部 暢 人民集中ノ大勢 東京 九一〇(三一ノ二)

花房直三郎 大正二年末帝國人口ニ就テ 統集 四二二(五ノ三)

濱井 照人 娼妓ト妊娠トノ關係ニ就テ 統集 二八七(四三ノ三)

西村 茂樹 人口論 洋々 九(八ノ一一)

同 人口論附說 洋々 一一(九ノ二)

同 公務及自由山業就中教育ニ關スル有業者ノ死ニ就テ 統集 二八九、二九六、四三ノ五、(二二)

同 本邦小兒死亡ノ特徵 統集 四〇四(四一、四二、四三、四四、四五)

同 本邦人ノ生死ニ關スル統計の批判ノ概要 統集 四一三(四ノ七)

同 青年ノ死亡 國家 二九ノ九、一〇、一二(四ノ九、一〇、一一)

米田庄太郎	人口動態平行法則論	國民	一八ノ五、六(四ノ五、六)
同	經濟的進化的人口法則	國民	一ノ四、六(四ノ一〇、一二)
横山 雅男	東京府下ノ自殺統計	統集	一三二—一三四(三〇ノ四—六)
同	本邦三大都ノ人口	統集	一九一—一九四(三〇ノ五—八)
同	人ノ死	統雜	一六八、一七四、一七六(三三ノ四—二)
同	本邦人ノ自殺ニ就テ	統雜	一九一、一九二、一九五(三五ノ三—七)
同	統計上ヨリ見タル都會ト田舎	統雜	二〇七、二一一(三六ノ七一—二)
同	佛國人口增加率ノ減少	統集	二七九(三七ノ六)
同	先ツ人口問題ヲ研究セヨ	統集	四〇九(四ノ三)
同	兒童統計ノ話	統雜	二八九、二九三(四三ノ五—九)
高野岩三郎	晩近本邦人口増加ノ比較研究	國家	一九ノ七(統雜 二二—(三八ノ七)
同	本邦出生統計一斑	國家	二二ノ六(四一ノ六)
同	本邦死亡統計一斑	國民	六ノ五(四二ノ五)
同	本邦人口ノ近狀	法協	二九ノ三(四四ノ三)
同	本邦ニ於ケル出生ト季節トノ關係	法協	三三ノ一(三ノ一)統雜 三四九(四ノ五)
同	人口問題	日社	三ノ一、二(五ノ一)
同	人間ノ發展	三田	二ノ二(四二ノ八)
同	ふうるにハ氏著一九一三年佛國ノ人口減衰ニ就テ	日社	二ノ一、二(三ノ一)
同	人口問題	日社	三ノ一、二(五ノ一)

まるさす及七人口論關係書目 三三

高岡 熊雄	北海道ニ於ケル人口中心及正中點ニ關スル研究	國家	二一ノ三(四〇ノ三)
同	北米合衆國食物供給論	國民	八ノ四(四三ノ四)
同	北海道ニ於ケル人口中心及正中點ヲ論ス	國民	一一ノ一(四五ノ一)
同	中島九郎	京法	三ノ一(四一ノ一)
財部 靜治	人口増加體性觀	京法	四ノ一(四二ノ一)
同	我邦人口ハ如何	京法	四ノ一(四二ノ一)
同	獨逸猶太人間ノ人口問題	京法	五ノ七(四三ノ七)
同	田中 太郎	人口問題ニ就テラべんすたいんが所論	統集 一四八(二六ノ二)
同	幼兒ノ死亡ト父ノ職業	統集	二〇七(三一ノ八)
同	飲酒ト自殺トノ關係	統集	二〇七(三一ノ八)
同	少年自殺ノ統計	統集	三一五(四〇ノ六)
同	統計上ヨリ見タル都市人口ト社會問題	統集	三七七、三七八(一ノ七、八)
田中 弘一	佛蘭西ニ於ケル人口問題	國民	一三ノ一(一ノ七)
武市 利美	經濟學ニ應用セル人生學ノ結果	統集	三八ノ四
高田 保馬	經濟的條件ノ出生率ニ及ボス影響	京法	八ノ一(二ノ一)
同	本邦出生率増加ノ原因	論叢	二ノ一、三(五ノ一、三)
高橋 二郎	死産及病死嬰兒論	スタ	五二(三三ノ八)
同	死亡論	スタ	五七—五九(二四ノ一—三)
同	時世ノ變遷ト佛國死亡ノ關係	スタ	六一、六三(二四ノ五、七)
同	佛國當今ノ形勢	統集	一一七、一一八(二四ノ五、六)
同	英佛氏數ノ増加	スタ	六四(二四ノ八)
同	出生論	統雜	六八—七四(二四ノ二—二五ノ六)

第二卷 第五號

高橋 二郎 自殺統計ノ話 統集 二六五(三六ノ四)

同 本邦人口論 統集 二七六(三七ノ三)

同 死産ト懷孕期ノ不同 統集 二七六(四二ノ四)

同 歐洲各國出生死亡ノ關係 統集 三〇三(四四ノ七)

高橋 勝弘 死産國際比較ノ困難 統集 三七二(四五ノ七)

高橋 勝 帝國内地ノ現住人口 統集 二五〇(四一ノ一)

添田 壽一 食物供給問題ニ就テ 東京 一六六(四四ノ一〇)

津村 秀松 生活難ト出生率ノ減少 國民 一四〇(二二ノ一)

同 獨逸ノ國勢及食物自給力ノ統計的研究 國民 一八〇(二四ノ二)

水井 潜 人口問題 日社 三〇一(二五ノ一)

中村 芳貞 壯年者ノ死亡率及其原因 統集 三五二(四ノ七)

中村 金藏 一八九八年佛國人口動態統集 二二七(三三ノ二)

らゝとげん 日本及歐洲統計結果ノ比較 國家 一ノ二(一〇ノ三四)

樂天 居士 飲酒ト生命ノ關係 スタ 二六(二二ノ六)

洛西 山人 人口論ニ就キ比類上ノ觀察 統集 一一六(二八(二四ノ四、六)

村田 豊 土地人口論 統集 二二四(三)

甄田直太郎 英國現在ノ人口 統集 六九(二〇ノ五)

白非喜之作 人口増加ノ法則ヲ論シ併テ貧民救済法ニ及フ スタ 三五(二二ノ三)

うるこつくす 人口ノ増加ヨリ見タル歐洲勢力ノ膨脹 國家 二一ノ六(四〇ノ六)

植松 孝昭 人口問題 東洋 四九五―五〇二、五〇四、五〇

日下 義雄 地球ノ人口 統集 一六、二〇(一五ノ二、一六ノ四)

久保田與四郎 人口増加ト食物ノ割合 東京 九一七(九二〇(三二ノ三)

吳文 聰 都會人口論 スタ 七(一九ノ一〇)

同 飲酒ノ害ヲ論ス スタ 三八(二二ノ六)

同 非命死傷ノ事 スタ 六八、統集 六九(二四ノ二、二五ノ一)

同 獨佛人口ニ就テ 東京 六二五(二五ノ五)

同 地積及人口論 統集 九四―九八(二七ノ二、二六)

同 自殺統計ニツイテ 統集 一二三(二四(二九ノ七、八)

同 歐洲大郡小兒死亡現況及其變遷 統集 一三二(三〇ノ四)

同 政治經濟社會上人口研究ノ必要ヲ論ス 東京 九一七(三一ノ三)

同 出生 統集 一五四、一五九―一六一(三二ノ二、三)

同 小兒ノ死亡ニ就テ 統集 二六八(三六ノ七)

同 人口ノ増加ト死産ヲ論シテ敢テ大方ノ人士ニ告グ 統集 二七二(三六ノ一)

同 都鄙人口比例 統集 二二五(三六ノ二)

同 死亡ニ就テ 統集 二九二(三八ノ七)

同 食料米及一人平均分配量 統集 二九五(三八ノ一〇)

同 人口ノ研究 統集 二四二(三九ノ六)

同 人口問題ト國力トノ關係 統集 二六三(四一ノ三)

同 遊艇法ニ就テ 統集 二七四(四二ノ二)

同 日本人口論(人口ニ及ボス戰爭ノ影響) 統集 三四八(四三ノ二)

同 出生ニ就テ 統集 二九五―二九七(四三ノ一、二)

同 戰後ノ出生 統集 三三三(四四ノ五)

吳文聰 獨逸帝國ニ於ケル人口問題 統雜 三二二(二ノ一)

同 大數中ニ隱レタル注目スヘキ現象 統雜 三一四(五ノ三)

同 人口増加率ノ減少ニ就テ 東京 一七九(四ノ三)

同 國家ト家族ノ衝突 統雜 三四八(四ノ四)

矢竹士 死體出產ヲ見ル 統雜 一九二(三〇ノ二)

山田 謙治 日本婦人ノ月經及妊孕ニ就テ 統集 二五六(三五ノ七)

同 北陸婦人ノ月經及妊孕方ニ就テ 統集 三七八(二ノ八)

山形 東根 人口ト經濟 東京 一二九五(三八ノ七)

柳澤 保顯 明治三十九年三月四日ニオケル巴里市ノ人口 統雜 二四八(三九ノ一)

山本美越乃 人口問題私見 國民 九ノ四(四三ノ一)

矢野 恒太 日本人ノ生命ニ關スル研究 國民 一二ノ五(四五ノ五)

松岡 忠美 日本人口論 東京 三八八(三九ノ九)

松崎 齋 佛國ノ人口減少問題 東京 一四七(二四二ノ二)

松野地儀行 日耳曼人口ノ増加 統雜 二九六(四三ノ一)

松崎故一耶 日本新死亡表ニ對スルニ對シテ其ノ氏ノ批評 統集 三八一(一ノ一)

K 富士川 游 人口問題ニ就テ 統雜 二五六(四〇ノ八)

W 藤本幸太郎 一八〇一年以降伯林倫敦巴里三市ノ前市人口増加ノ趨勢 國民 一七ノ四(三ノ一)

小島 果 人口蕃殖原則一斑 統集 二二(一六ノ五)

小林 郁 人口論 國民 四ノ二(三(四)一ノ二)

小松 實造 北海道ノ舊土人人口増加ニ就テ 統雜 二七三(四二ノ一)

寺田 勇吉 兒童死亡論 スタ 四七、九二、九七、一〇二

同 佛國人口論 統集 一三二(二五ノ七)

同 佛國ニオケル人口減少 統雜 七五(二五ノ七)

同 日本ノ人口ハ幾何ナルヤ 統集 一六五(二八ノ四)

安宿 一郎 獨逸帝國ノ人口 統集 一九八(三〇ノ二)

同 相原 重政 一八九九年獨逸帝國ノ結婚出生及死亡 統集 二四八(三四ノ一)

同 日本ニ於ケル小兒ノ死亡 統集 二八四(二八九三七ノ一、三八ノ四)

同 小兒ノ死亡 統集 二九三(三八ノ八)

同 本邦米ノ產額及消費ニ就テ 統集 三八二(一ノ二)

同 本邦麥ノ產額及消費ニ就テ 統集 三八三(二ノ一)

有森 新吉 幼兒死亡ノ社會ニ於ケル關係 統雜 八三、八四(二六ノ三、四)

阪本 敦 東京市ノ現住人口ニ就テ 統集 三七七(四五ノ七)

北崎 進 我產架ノ基礎タル土地及人口 東京 一五〇(四二ノ七)

宮本 基 我國人口ノ將來 統雜 一三四(三〇ノ六)

同 北海道土人論 統雜 一五五(三三ノ三)

同 佛國人ノ日本自殺潮 統雜 二六四(四一ノ四)

水野鍊太郎 都市集中ト農村ノ荒廢 國家 二八ノ一〇(三ノ一〇)

溝淵 實吉 都會膨脹ノ利益 東京 一八四(二一八四四(五ノ三))

廣瀬 吉雄 死亡ノ原因 統集 二六七(三六ノ六)

毛梨 西子 人口問題 統雜 二五三(四〇ノ五)

世民 太一	死産	スタ	五〇(二三ノ六)
鈴木 敬治	日本及各國人員二倍期	統集	一九(一六ノ三)
杉其 二	飢饉ノ豫備	スタ	二六(二一ノ六)
杉亨 二	人ノ死ト生	統集	一一三(二九ノ七)
杉浦 久兼	北海道舊土人ノ死亡	統集	二〇九(三六ノ九)
*	本邦人口ノ實況如何	東京	五四〇(五四二、五四四)
*	佛國ノ人口減退救済方法ニ關スル調査	六、五四九(三三ノ九一)	
*	佛國ノ人口減退救済方法ニ關スル調査	法協	三一ノ九(二ノ九)
*	人口論	東京	一一五〇、一一五二、一一六一
*	佛國ノ人口問題	統集	二四五(三四ノ八)
*	死産ノ原因	統集	二三九(三四ノ二)
*	茨城縣ノ死産ニ就テ	統集	二七四(三七ノ一)
*	郡會田舎人口分配ノ消長	東京	二四二(三五ノ九)
*	佛國ノ將來	東京	一三二(三八ノ二)
*	露國ノ人口増加ト西比利亞ノ植植	東京	四九二(四二ノ七)
*	全國都市人口ノ消長	東京	五九五(四五ノ四)
*	米ト人口	統集	三七五(四五ノ五)
*	本邦産米及人口ノ増加率比較	東京	六一七(一ノ二二)
*	佛國人口減退救済方法	統集	三八四(二ノ二)
*	英國幼兒死亡率激增	統集	四一四(四ノ一〇)
*	日本ノ人口	東京	七二五(四ノ一一)

備考。以上ノ外尙心付キタルモノナ學アレバ左ノ如ク。
 稻田周之助 人口問題ノ將來 法學新報 二六ノ二
 伊藤 眞雄 かんなん人教授ノ人口論 商業及經濟研究 二五ノ四

二瓶士子治	臺北市街人口ノ膨脹ト市外流動ノ方向	臺灣統計協會雜誌	一〇八
同	人口集中ニ關スル新説	臺灣統計協會雜誌	同 九四
二階堂保則	歐洲諸國ノ出生死亡ノ趨勢ヲ論評シテ本邦ノ事	保論評論	五ノ一
同	德ニ及テ	臺灣統計協會雜誌	九三
同	本土臺灣トノ死亡原因比較	臺灣統計協會雜誌	九三
同	日本ノ女ノ妊孕力 衛生世界	大正四年一月號	
西村 萬壽	一九二〇年ニ於ケル世界諸國ノ人口推定	地學雜誌	三〇八
總川 新	獨逸ニ於ケル人口生率率ノ減少	國際法外交雜誌	二二ノ一
大隈 重信	激増シツアル人口ニ對スル政策	實業之日本	一六ノ七
岡 實	人口ノ増殖ト食物問題	農業世界	六ノ二
河田 嗣郎	都市集中ノ勢	日本經濟新誌	一一ノ三
横山 雅男	我が帝國ノ人口増加力	人性	大正四年二月號
田原順次郎	出生減退ノ世界的現象	臺灣統計協會雜誌	八六以下
中川 望	人口減少ノ防止	國家及國家學	三ノ七(四ノ七)
永井 清次	佛國人口問題ノ將來	日本經濟新誌	二二ノ二
海野 幸徳	人口制限問題	東亞ノ光	八ノ一
生江 孝之	生活難ヨリ起ル人口ノ減退	早稻田講演	三ノ八
吳 文聰	日本人口動態ノ話	教育界	二ノ七、八(三六ノ五、六)
山上萬次郎	本邦都市人口増加ノ趨勢管見	地學雜誌	三二二
三上 正毅	日本人口論	國家及國家學	三ノ四一六(四ノ四一六)
三浦 義道	普魯西國ニオケル國民死亡率	保險雜誌	二二〇

下村 宏 人口問題ト民族發展 大陸 二九

森川 端夫 日本帝國ノ使命並ニ運命ヲ論ジテ日本民族ノ人口問題ニ及ブ 社會及國家三ノ三(三ノ九)

木公 子 歐洲現時ノ人口問題 財政經濟時報 一ノ二

皆武 時 人口ヲ都會ニ集中スル狀況並ニ影響 中央銀行通信錄 一〇一—一五〇

第三

我國維新以前及ヒ支那朝鮮ノ人口ニ關スル論說及ヒ記事ノ主要ナルモノ(但、人口調査、人口ノ移動、統計表ノ類ヲモ含包ス)

井上 瑞枝 大日本古來人口考 統雜 二二—二五、二二—二八(三七、一—六)

伊能 竊則 古今戶口考如關後篇 一四(四ノ七)

今井 武夫 有徳公ノ人員調 スタ 二二(二ノ二)

横山 山清 本朝古來戶口考 學藝 五ノ二六(二ノ九)

中村不能齋 古代人口ノ多寡増減ノ學藝 一一ノ六〇(二五ノ七)

村田 豐 日本古今ノ人員 統集 二(二四ノ三)

同 大日本古今人口比較表 統集 三(一四ノ六)

木村 正藏 古昔ノ人口數 洋々 九(八ノ二)

高橋 勝弘 伊能氏ノ古今戶口考 統集 四—九(五ノ二)

河合 利安 我邦上古ノ人口 統雜 三三三(三ノ一)

同 我邦中古ノ人口 統雜 三三四(三ノ二)

同 我邦近古ノ人口 統雜 三三五(三ノ三)

同 近世(江戸幕府時代)ノ人口 統雜 三三八(三ノ六)

同 明治維新ノ人口 統雜 三三九(三ノ七)

小宮山綾介 近世人口ノ蕃殖 如蘭 七(二ノ九)

同 近代ノ人口并ニ人口ト天時トノ關係 皇典 四ノ三六、三七

まゐさす及ビ人口論關係書目 三七

喜田 真吉 古代人口ニ關スル面白イ統計(よしなしごと) 歴史 三ノ一一(三四ノ一一)

同 人口及人種(日本地理講義) 歴史 二ノ八(三三ノ一一)

同 戶口開墾(國史地理資料) 歴史 八ノ一〇、一一、一二

高木 丘山 人別調ノ事 江會 一ノ五(二二ノ二)

鈴木奔太郎 寛延三年御國人口表 東京 二二五(二五ノ八)

金谷 生 舊仙臺藩ノ人口政策 統雜 二二三(三九ノ八)

蒲生 俊 文祿二年蒲生領ノ人別調 統集 一八(二六ノ二)

運甕齋主人 享保以後ノ六大藩ノ人口 スタ 六六(二四ノ一〇)

横山 雅男 江戸ノ戶口及町數 スタ 二三(二二ノ三)

山下 重民 江戸市街統計一斑 江雜 一、二(二二ノ六、七)

三島 通良 慶應三年ニオケル江戸ノ人口 江會 一ノ三(二二ノ一〇)

膠古 迂入 江戸町中人別調 統雜 二八〇(四二ノ八)

* * * 舊江戸ノ戶口 統集 三〇六(四四ノ一〇)

* * * 舊江戸ノ町數及人口 統集 八九(二二ノ二)

* * * 享保寛保天明年間ニオケル江戸ノ町數及戶口 統集 九九(二二ノ二)

* * * 歴史上ヨリ見タル上代日本海沿岸人民ノ移住 統集 一四八(二六ノ二)

星野 恒 日本古代ニ於ケル人民ノ移住ニ就テ 歴史 八ノ一(三九ノ一)

内田 銀藏 國民 四ノ一、三、五、五(一一三、六)

河上 肇 徳川時代ノ經濟學說ヲ論ス 國家 一七ノ一九一(三六ノ一)

田崎 仁義 山鹿素行ノ民政論 國民 七ノ五、八ノ二、三

平出經二郎 子むろし 史學 五ノ八(二七ノ八)

第二卷 第五號

東亞同文會支那調查報告書二ノ一三(四四ノ一、二)ニハ「ろつくひる氏ノ支那人口論」ヲ譯載ス。

小宮山綏介	舊政府ノ發行額加	附、洗兒事	皇典	一八ノ二七二
母田 費	寛政年間處刑人ノ數	洋々	三(二〇ノ六)	
同	寛政年間捨子ノ數	統集	一(一三ノ一)	
* * *	穢多非人ノ數	江會	二ノ一〇(三ノ一〇)	
長井 行	朝鮮國戶口出結及田賦	東京	七九四(二七ノ二)	
堀内 入耶	朝鮮人現住戶口	統集	三七一(四五ノ一)	
* * *	韓國戶口	統集	二〇〇(三ノ二)	
* * *	韓國光武六年度戶口數	統集	二六三(三六ノ二)	
檜山 雅男	朝鮮ノ人口ニ就テ	統集	三五七(四三ノ一)	
同	朝鮮李朝歷代ノ戶口	統集	三三一(二ノ一)	
同	朝鮮各道ニオケル李朝歷代ノ戶口	統集	三九四(二ノ二)	
同	支那歷代戶口考	統集	八一(二ノ五)	
同	支那歷代ノ戶口	統集	八五、八六、八八(二六ノ五、六、八)	
山寺 信炳	漢土當代境域人員統計	統集	三五(一七ノ七)	
財部 靜治	支那人口統計論稿	京法	六ノ二(四四ノ二)	
根岸 信	清國人口統計ノ内容ニ就テ	國民	一〇ノ四(四四ノ四)	
* * *	清國ノ人口	統集	二九〇(三八ノ五)	

備考 以上ノ外、皇典講究所講演五ノ四七ニハ、秋野山之、中古ノ戶籍法」アリ。同五ノ四九、六ノ五三、五五、五七ニハ同氏ノ「近世ノ戶籍法」アリ。スタチスチツク雜誌三五(二二ノ三)ニハ高橋二郎氏ノ「支那歷代ノ戶數」アリ。同四二(三二ノ一〇)ニハ向氏ノ「朝鮮ノ戶籍」アリ。何レモ人口ヲ知ル上ニ參考トスヘキモノナリ。尙教育界一ノ一一(三五ノ九)ニハ内田銀藏ニ、良羽及北海道ニ就キテ、ナル一文アリ。良羽及ヒ北海道ノ人口ヲ論セリ。國家及國家學三ノ四(四ノ四)ニハ瀧本誠ニ「徳川時代ノ社會政策」アリ。當時ノ都市膨脹論ヲ説ケリ。